

金山明博

AKIHIRO
KANAYAMA

狭山市立博物館 令和3年度 秋期企画展



遊画展

— マンガ・アニメを友に心の旅60年 —

現在、狭山市立博物館では狭山市在住の絵師・金山明博さんによる絵画作品展を開催しています(12月5日まで)。この展覧会のために描き下ろされた未発表作品を含む、全60点を展示。日本アニメの歴史やしくみについても紹介しています。

日本有数のアニメーターとして、数々のアニメを手掛けてきた金山さんが絵を描き始めたきっかけや、この企画展の見どころなどについて伺いました。

絵のきっかけ

私が絵を描き始めたのは3歳頃。戦争中だった当時、軍服屋を営んでいた実家の2階を学生に貸していて、緒になつて戦闘機の絵などを描いていました。小学校に入り戦争は終わったものの、まだ暗い影を引きずった雰囲気の中、私の胸を熱くするのは手塚治虫先生の漫画でした。漫画家を目指すようになったのはこの頃からです。

漫画家デビューするも…

高校卒業後、本格的に漫画を描き始めました。何度も出版社に足を運び、もうやめようかと思っていた時に連載が決定。念願の漫画家デビューを果たしました。しかし、漫画家としての生活はそう長くは続きませんでした。ある編集長から「売れっ子のマネをして描け」と言われたことが嫌で漫画から離れることに。これが、アニメーターとして歩み始めるきっかけでもありました。

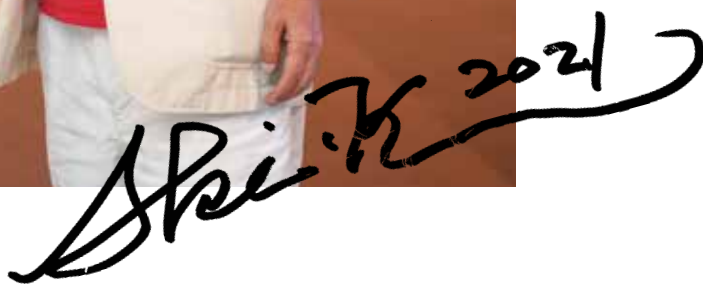
訪れた人生の転機

そして、憧れの手塚先生が手掛けるアニメーション制作会社、虫プロダクションへの入社を目指します。しかし、当時の倍率は高く、約5千人が受けて1人か2人受かる程度といわれていま

東京都出身。狭山市在住。昭和33年に漫画家デビューし、会社勤めの傍ら『冒険王』『少年画報』『ぼくら』『少年マガジン』の連載漫画家となる。40年、虫プロダクション入社。『ジャングル大帝』でアニメーターデビュー、『あしたのジョー』で作画監督を担当し大ヒット。51年、日本サンライズ(現サンライズ)のスタッフとして『超電磁ロボ コン・バトラーV』『闘将ダイモス』などの作画監督やキャラクターデザインを手掛ける。その後も『機動戦士Zガンダム』『鎧伝サムライトルーパー』など人気作品に参加。国内のみならず海外の熱狂的なファンからも支持されている。

た。通常は試験に合格しなければいけません。が、幸運なことに手塚先生が私の漫画を知っていたため「金山くんならいいよ」と試験を受けることなく合格。こうして漫画家からアニメーターに転身しました。

デビュー作は『ジャングル大帝』の第3話。アニメーターとしては遅め、26歳でのデビューでした。今回の企画展では、このアニメの主人公、「レオ」が走るアニメーションを紹介しています。



不朽の名作 『あしたのジョー』

それ以外にも多くの作品に携わりました。やはり、中でも思い入れがあるのは『あしたのジョー』ですね。当時はいわゆるディズニータッチのアニメが主流の中、劇画のアニメはヒットするかどうかのチャレンジでした。しかも、劇画を描けるスタッフは限られていたため、必然的に1人当たりが絵を描く枚数は膨大な量になります。睡眠時間は2、3時間程度。幻覚を見たこともありましたよ(笑)。このアニメで思い入れのあるキャラクターは力石徹です。「外国人を思わせる力石の独特の顔つきを描けるのは金山だけだ」と言われ、力石が登場するシーンは、私が担当することが多かったですね。

アニメーター×作品展

動画を生業なりわいにするアニメーターが絵画を披露するチャンスは滅多にありません。今回、この博物館で企画展として



あえて荒々しいタッチのモノクロで描いた力石徹
©高森朝雄・ちばてつや/講談社・TMS

て作品を発表する場をただで、本当にありがたく思っています。

企画展の見どころ

私が描く作品で、最も見て欲しいところは、「絵が生きて見えるかどうか」。「情感」を大事にしながら描いているので、そこが伝わり嬉しそうです。それと、もう一つ、「目」を見て欲しい。特に、女性の目を描くことには自信があります。喜怒哀楽を表現するために、まぶたや瞳の光を微妙に描き分けるなど、目を描くことはかなり時間をかけて研究してきました。

それらを踏まえて、ぜひ企画展で実際の絵を間近でご覧になってください。

工作教室

秋のまいまい体験講座

人気の砂絵をはじめ、フェナキスティスコープ(回転のぞき絵)など、アニメに関する工作もあります。

日時 会期中の土・日曜日、祝日
①10時30分～11時45分
②13時30分～14時45分
参加費 200円～300円

問合せ 博物館へ

☎29555-3804